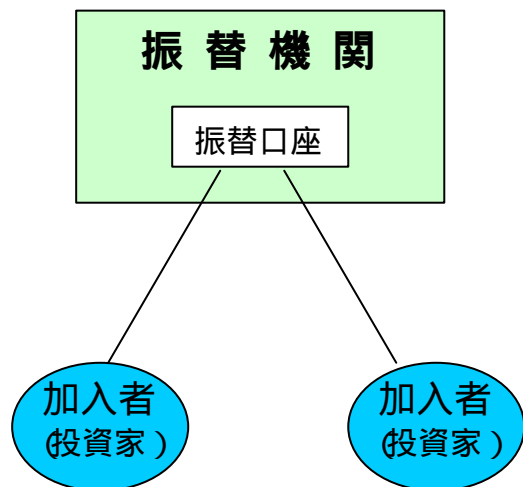
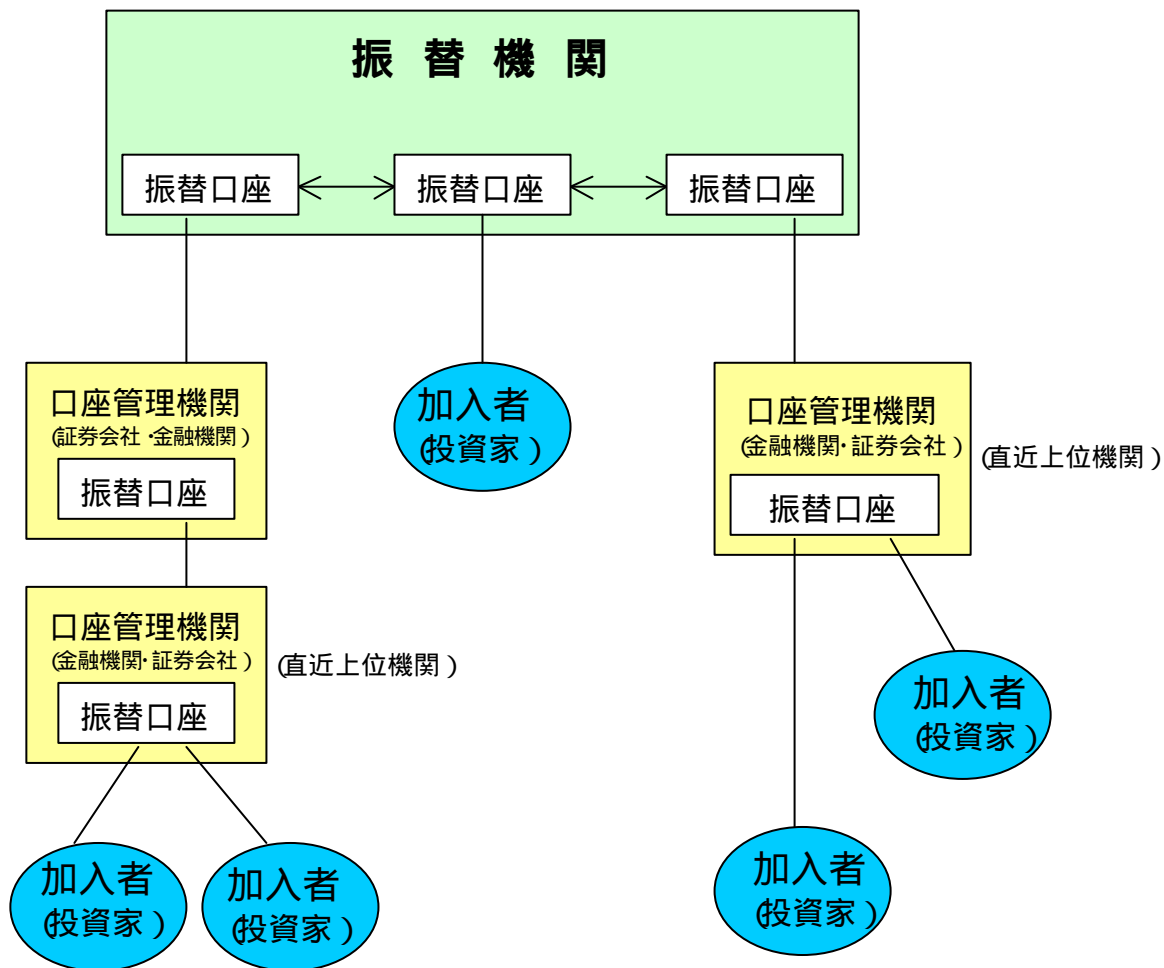


単層構造



多層構造



振 替 機 関					
振 替 口 座 簿					
加入者 A	口座管理機関 甲		口座管理機関 乙		機関口座
	自己口座	顧客口座	自己口座	顧客口座	

加入者 A

口座管理機関 甲 振 替 口 座 簿		
加入者 B	加入者 C	加入者 D

加入者 B

加入者 C

加入者 D

口座管理機関 乙 振 替 口 座 簿		
加入者 E	加入者 F	口座管理機関 丙
		自己口座 顧客口座

加入者 E

加入者 F

口座管理機関 丙 振 替 口 座 簿	
加入者 G	加入者 H

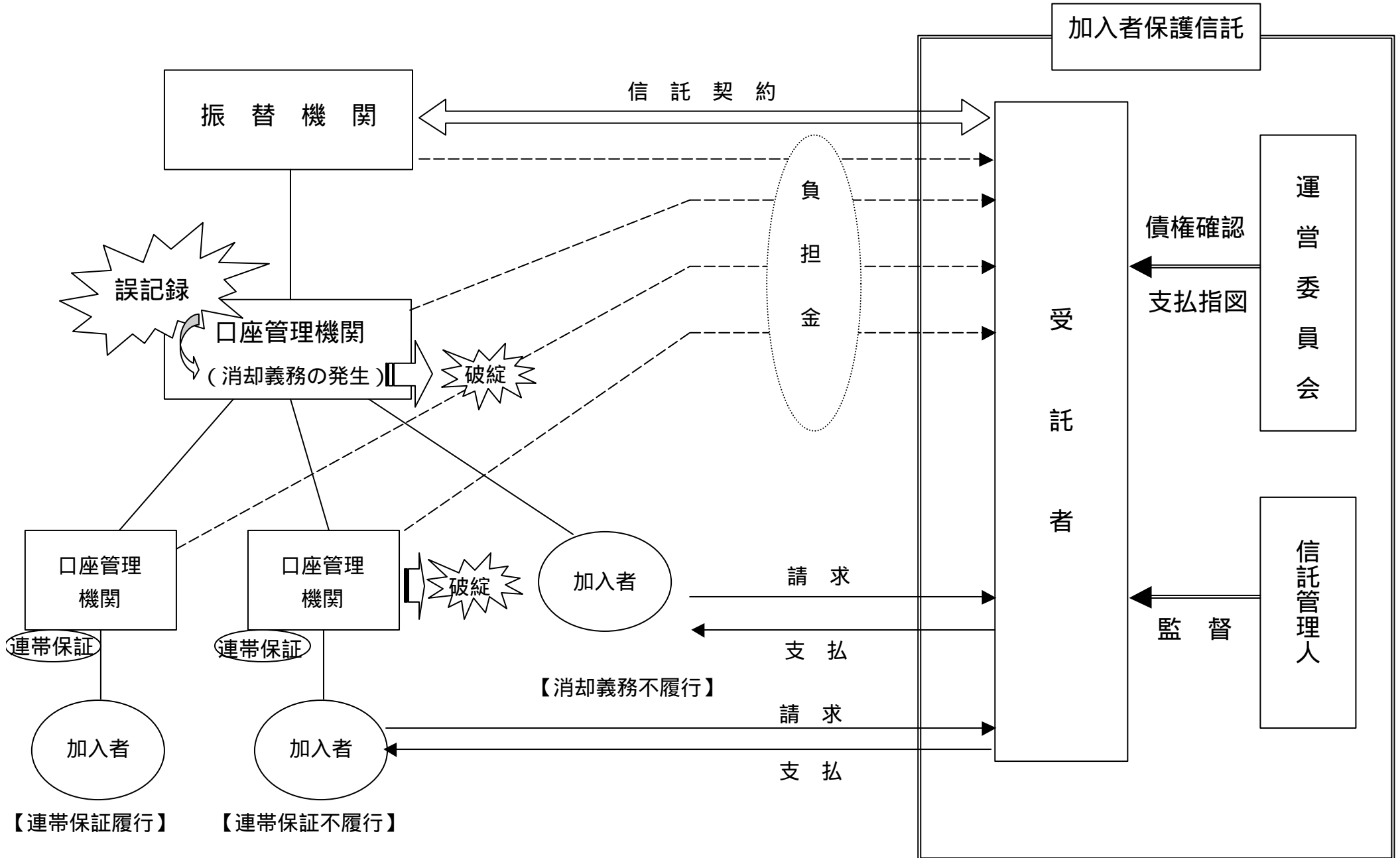
加入者 G

加入者 H

(例) 口座管理機関 乙の振替口座簿

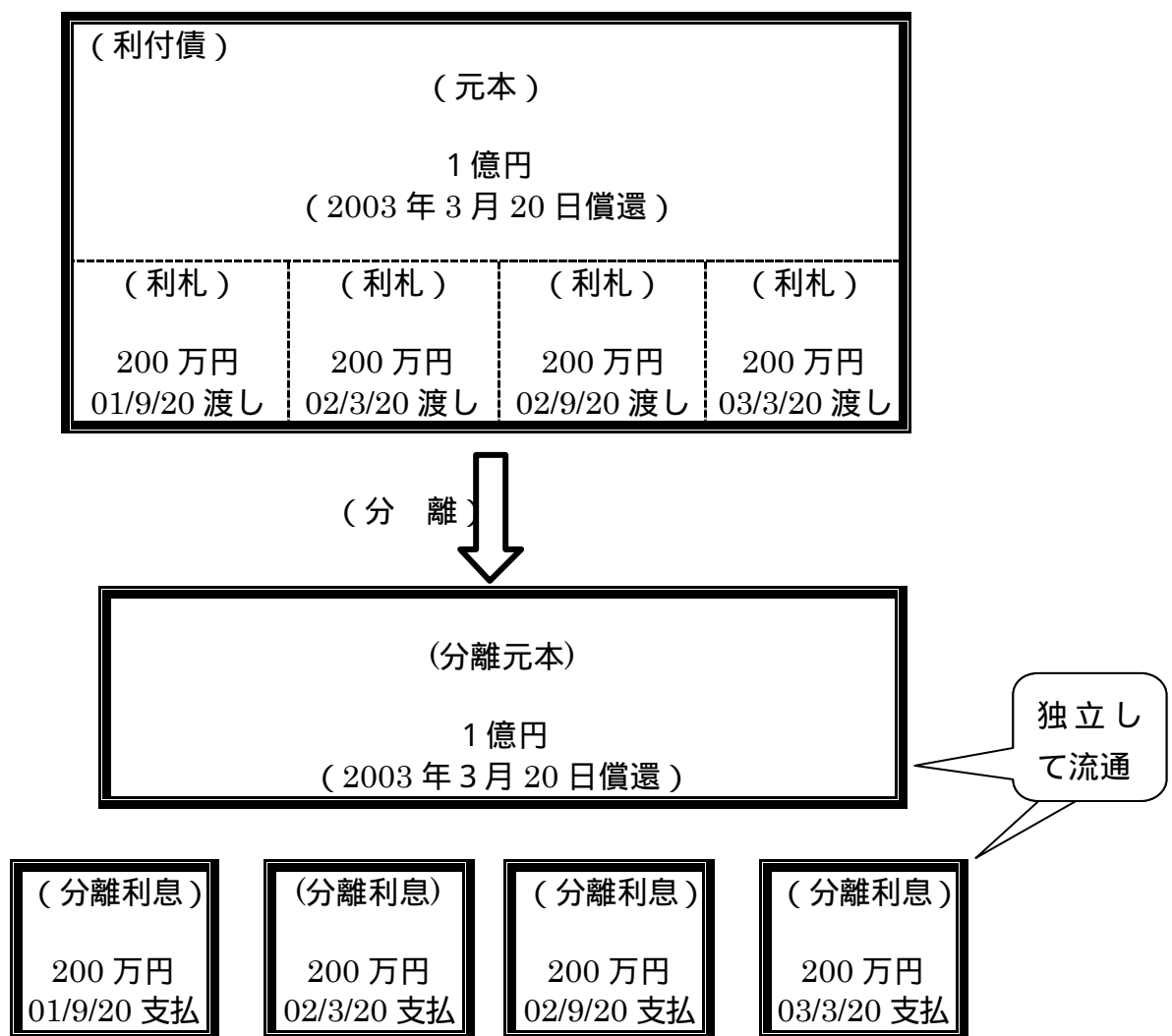
加入者 E		加入者 F		口座管理機関 丙	
				顧客口座	自己口座
A債	100	a債	100	D債	200
B債	50	b債	500	E債	50
C債	20	c債	300	F債	150
.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.

加入者保護信託

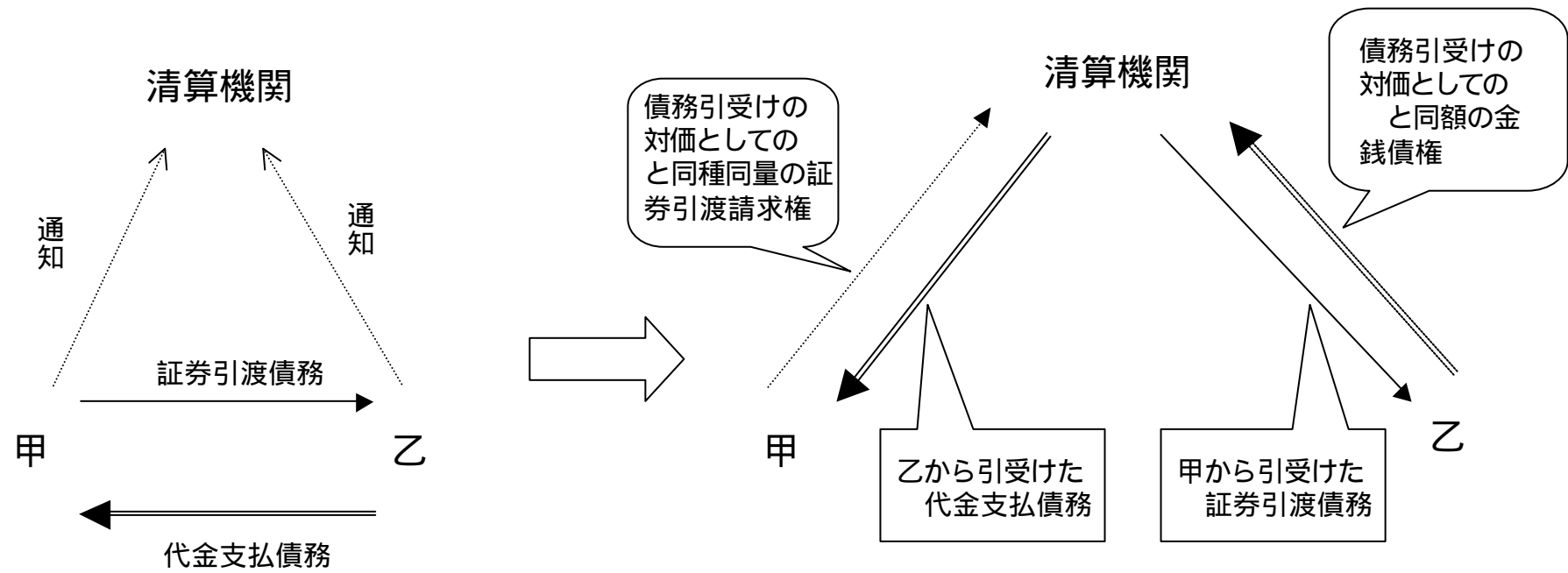


元本部分と利息部分を分離できる国債（ストリップス債）について

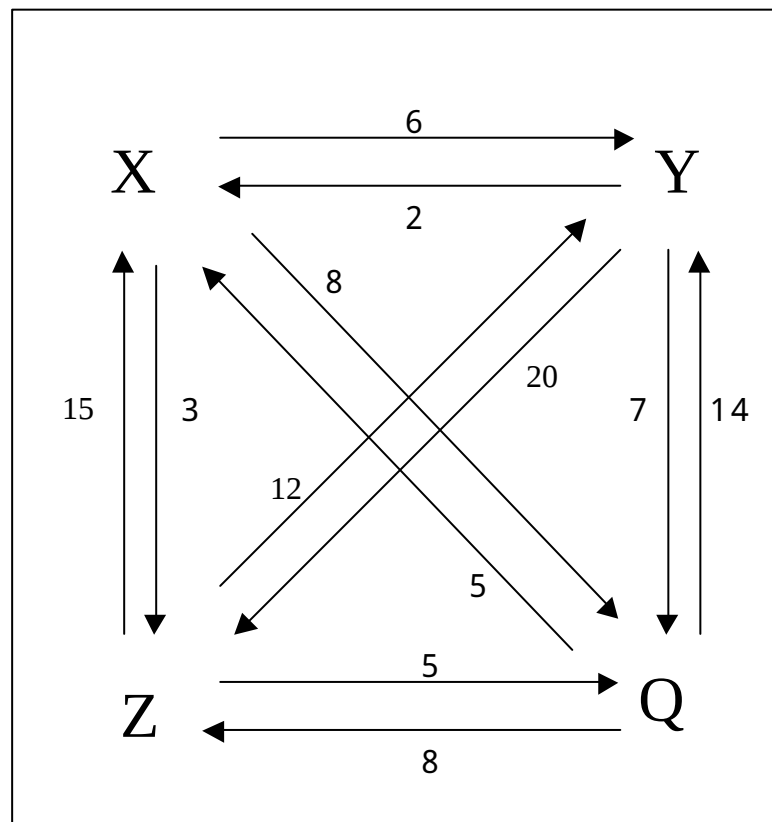
- 財務大臣の指定する利付国債（分離適格振替国債）については、元本部分と利息部分を分離し、それぞれ独立した国債（分離元本、分離利息）として流通させることが可能。
- また、分離元本と分離利息は、統合して利付国債に復元することも可能。



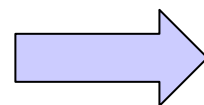
有価証券債務引受業



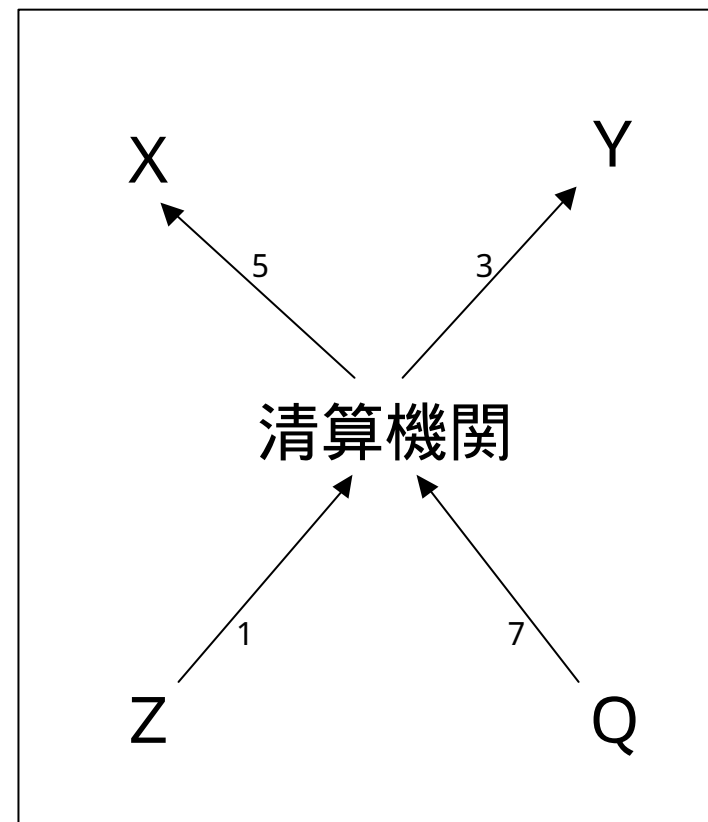
清算機関等を用いた清算の効果



有価証券債務
引受業としての
債務引受



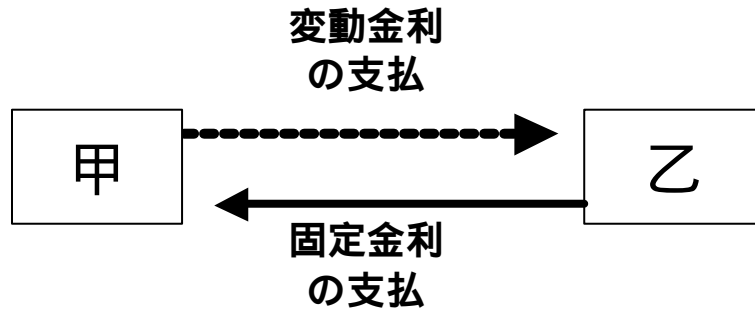
(相殺)



国債の利子相当額を政府に支払うことを約する者に当該金額に
相応する金額の支払を約する取引（金利スワップ取引）について

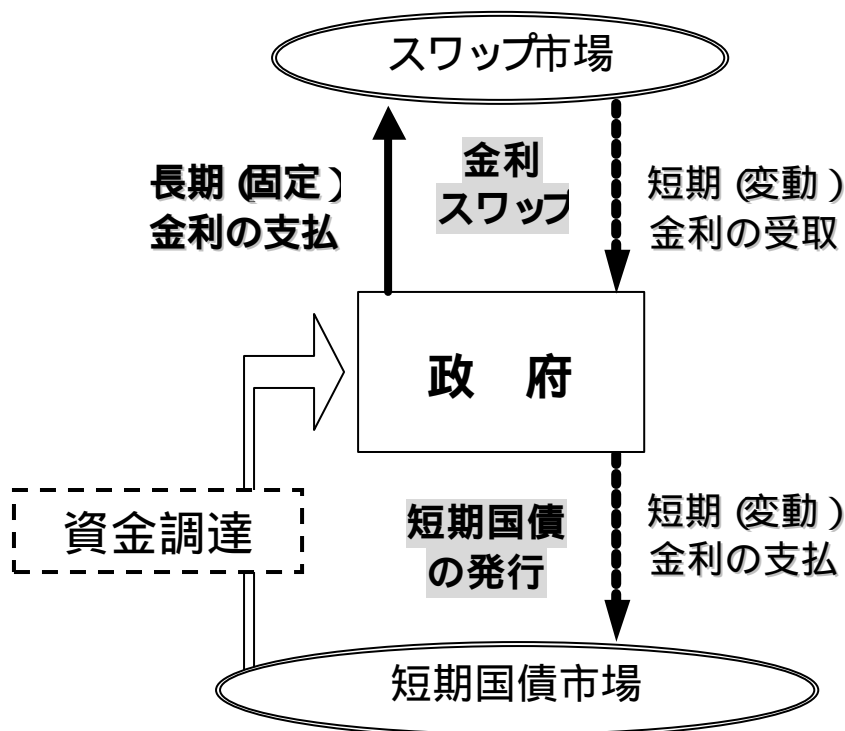
< 金利スワップ取引のガイ用 >

- 金利スワップとは、異なる種類の金利（例えば固定金利と変動金利）に基づく金銭の支払を、一定期間にわたって相互に行う取引のこと。



< 発行当局による金利スワップの活用例 >

- 長期国債（例えば 10 年債）を発行する一方で、「10 年間、国が長期（固定）金利を受取り、短期（変動）金利を支払う」という金利スワップ取引を行えば、実質的に短期（変動）金利による 10 年間の資金調達を行うことができる。



- 逆に、短期（変動）金利による資金調達を、長期（固定）金利による資金調達に変換することも可能。